

2022年度受賞者の受賞コメント

この度は、久能賞の授与及び厚いご支援をいただき誠にありがとうございます。久能賞に応募する過程で、自分の夢と改めて向き合うことができ、将来の目標、そして目標を叶えるための手段が明確になり、今後の活動に対してより精力的に取り組もうという決意を堅くすることができました。久能悠子様、並びに選考に関わってくださった全ての方に深く感謝を申し上げます。

私には「自分の手の中で宇宙を再現する」という夢があります。自宅から天の川が見える環境で育った私は、幼い頃から宇宙への興味と畏怖の念を抱き、いつしか宇宙の全てを知りたいと願うようになりました。

この夢を叶えるための強力な手段として、シミュレーション天文学を考えています。シミュレーション天文学は、コンピュータの中に模擬宇宙を形成し、物理現象を再現する天文学です。シミュレーション天文学を駆使することで、現在の宇宙だけでなく過去、未来の宇宙を知ることが可能になります。

しかし現状では、宇宙の全てを再現するという目標には程遠いです。理由はいくつかありますが、私が特に注目しているのが「専門分野が過度に細分化されていること」です。木を見て森を見ずという言葉のように、ブラックホールや銀河といった狭い領域を専門としている現状は、宇宙全体を説明するには不十分です。

私は、この状況を打破するために、「個人的な天文学的知識の向上」と「分野を超えた研究グループを立ち上げるためのつながりの構築」の両方を長期的な目標としています。これまで、ブラックホールから出るジェットを再現する独自のコードの開発に成功したり、国立天文台で行われる研究インターンに参加して、星の進化段階において最後に生じる大爆発である、超新星爆発の研究を行ったりしてきました。

今後は、より専門的な研究を行いながら、つながりを海外に広げるべく留学や海外の研究会への参加を考えています。

私は幼少期から「宇宙の全てを自分の手の中で再現する」という夢を抱き続け、現在は具体的な行動に移すことができています。この夢は、人類にとって今すぐ必要な地球規模の課題を解決したり、商業利益を生んだりするわけではありません。しかし、ゴーギャンが「我々はどこからきたのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」で表現したテーマは、人類が長年考え続けてきた根源的な問いです。私の夢であるシミュレーション天文学の開拓は、宇宙を知ることで、この問いに科学的に意味のある答えを与えようとしています。私は、自分の人生をかけて、果てのない世界へ挑みます。

理学部 松野なな